

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

2学期制の実施

本市では、次のことなどを主なねらいとし、平成18年4月より市立全小・中学校で2学期制を実施しています。（平成16年度・17年度から実施したモデル校もあります。）

3学期より2学期という大きなスパン（期間）で区切ることにより、余裕を持った生活や学習が可能になる。このことで、次のような効果が考えられる。

- ① 年間授業時数が増え、児童・生徒と教師がじっくり向き合って学習できる。
（行事等の精選と合わせ20時間程度授業時数が増えました。）
- ② 長期休業日の教育相談等を生かして、個に応じた指導が充実する。
（本校でも、7月下旬に個人面談を予定しています。詳しい日程等は、後日お知らせします。）
- ③ 長いスパン（期間）のなかで、より確かな評価ができる。
（3学期制では、1学期約70日・2学期約80日・3学期約50日でしたが、2学期制では、前期約100日・後期約100日となりました。）

本市においては、2学期制実施から10年以上が経過し、2学期制のこれまでの取組状況や課題を明らかにし、今後の学期制の在り方について総合的に検証するための委員会が開催され、検討がなされています。

学期制については、様々な考え方や感じ方がありますが、本校においては、2学期制のよさを生かしながら、今後も教育活動を展開してまいります。

祇園歴史の旅（その41）「戦前は高天町、戦後は戸尾市場～実体験の20年の私記録～」（その3）

中部地区町内協議会設立25周年記念誌（平成20年発行）、佐世保史談会会員の筒井隆義さんの記念エッセーより抜粋。「記憶に残っている一つに『西部のヒーロー、ケニー・ダンカン』ショーがあります。典型的なカウボーイ姿で舞台上で登場、10m以上離れた的のナイフに、後ろ向きで鏡を見ながらピストルの曲射ち。銃声一発のあと、ナイフの刃で見事に二つに割れたピストルの弾丸を高々と上げてヤンヤの喝采を拍しました。娯楽の王座は映画、なかでも西部劇が最盛の時代、ケニー・ダンカンは憧れのハリウッドを代弁するまさにヒーローでした。ところがところが、この一行は時流に乗ったサギの興行で、曲射ちもセモノ……と暴露され、みんなアツクにとられた、という後日談がついています。

夜店の商和マーケット街は、今もシューズセンターと呼ばれているように、軒なみ靴屋さん。近くの広場はキグレサーカスなどが興行する広場。佐世保の軍楽隊長、田中穂積が武鳥羽衣の詩『美しき天然』に作曲したわが国初のワルツ曲は、その哀愁ある曲想がサーカスで奏でられるジンタになり、佐世保の夜店広場に流れました。この広場はのち松竹三要という常設映画館となり、高峰秀子主演の日本初総天然色映画、つまりカラーの『カメルン故郷に帰る』が上映されました。一帯の映画館は、千日劇場、日活、東宝中央、ニュース劇場が軒を接し、前記の京坪町大劇は東映に、京町交差点には再映館スバル座が低料金で歓迎されました。

昭和33年、私は現在の松浦公園にあった『九州時事新聞社』に入社、125ccのバイクで取材に駆け回る社会人となりました。この松浦、常盤、栄の三ヶ町は、戦前は海軍御用達の大商社、『新免』など大手卸売店が軒を並べた中心商店でした。灰尽に帰した戦後、表通りは米兵の喜びそうなみやげ物を並べたスーベニアショップ、裏は外人バー街。この一角で、米兵の助言をもとに始まったハンバーガーショップが『ブルースカイ』。現在の佐世保バーガーの元祖です。玉屋デパートも焼け残った建物を修復して営業を再開、三ヶ町に代わって中心商店街の核となった四ヶ町も年を追って整備されました。外人バーから映画館へ転進したテアトルダービーは親和銀行本店前、米兵専用ダンスホールから洋画館となったカズバ、外人キャバレーから同じく洋画館となった『富士映劇』は、近くの国際映劇などと各館入り乱れてフィルム競争を繰り広げました。」（続く）

次回は、「戦前は高天町、戦後は戸尾市場～実体験の20年の私記録～」（その4）と題して、筒井隆義さんの実体験の続きをご紹介します・・・。